

4月8日 なることを喜べ

父が口癖のように言っていた「なることを喜べ」。それは祖母の教えだった。そして、戦中、戦後を生きた父の「教訓」でもあったように思う。

若い頃、私はこの言葉が嫌いだった。努力しても報われないときの言い訳にしか聞こえなかったから。人生なんて自分の思い通りにならないことの方が多い。つまりいたり傷ついたりする度に「なることを喜べ」と言われると、まるで「運命論者」の逃げ口上のように納得できなかった。

数年前、「置かれた場所で咲きなさい」という本がベストセラーとなった。ハッとした。父の言葉と同じだと思った。今までネガティブな意味でしか捉えられなかった「喜べ」が突然ポジティブな言葉に輝きを変えた。

自分らしさを変える必要なんてない。どんな場所であっても「自分」でいていいのだ。順境であれ逆境であれ、その場を楽しんでやれと思えるようになった。

それは「なることを喜べ」が、勇気をもらえる言葉となった瞬間だった。

